

白灰 歌詞

A

真夜中午前0時11分
既読にならない言葉を音楽で飲み込む
度数9%のあの缶のように
アクセルを握りしめ両目を瞑る
勇気もなけりゃ免許もない

煙が目染みて
嗚呼涙がとまんないんだよ

A2

あなたは何かを待ってた
私じゃ気づけない何かを
それが言う「これからどうする？」
痛みを隠して笑ってたんだね

好きの反対は嫌いじゃないように
昔のあなたは嫌いだけどね
それ以上に放つ言葉忘れたくはないから

B

水平線に日が沈んだ
なぜかとても胸が痛いんだ
最期に孤独を選ぶ猫は
みんなこんな気持ちなんだろうか

水平線から日が昇る
でもまだ心は沈んだまま
あのときの苦労も涙も
幼さゆえ分からなかった

サビ1

目を見開いて
名前を呼んで
愛に気づいた
あの頃のように

あなたはきっと
わかってたんでしょ？
冷えを悟った
あの灰のように
嗚呼

A3

時間がないからじゃなくてさ
忙しいからでもなくてさ
素直になることの恐怖、そこから

きっと逃げてしまってたんだ

B2

水平線に日が沈んだ
なぜかとても胸が痛いんだ
最期に孤独を選ぶ猫は
みんなこんな気持ちなんだろうか

水平線から日が昇る
でもまだ心は沈んだまま
優しい声で呼ぶあなたが
私を今も包むから

サビ2

目を見開いて
名前を呼んで
愛に気づいた
あの頃のように

あなたはきっと
わかってたんでしょ？
冷えを悟った
あの灰のように

Cメロ

嗚呼
空に溶けていく
あなたとの日
嗚呼
聞こえたよ私
儂く強い
命の声が

(間奏)

B3

水平線にひた走れたのは
背中を押すあなたがいたから

「前を向け」「諦めんな」
そんな言葉の愛を抱く

もう目の前にいないはずなのに
どこか遠く聞こえた気がして

少しでも誇れるような
そんな人で会えるように

ラスサビ
目を見開いた
あなたはいない
それでいいの

心(ここ)にいるから
ふとあの頃の
匂いがしたの
もう目にしみる
ことはないわ
嗚呼